

妹はおにーちゃんが好きすぎて
ひたすら犯しちゃうの
特典台本

※一部製品音声と異なる場合がございます。予めご了承ください※

//★タイトル「ホール～イン～トロダクション」

「ぱちぱちぱいす」

「妹はおにーちゃんが好きすぎてひたすら犯しちゃうの」

「主人公である兄が大好きでいつも世話を焼いてくれる妹」

「『しようがないなあ』と怒ったように呟つもの、それは恋心を隠すためにつま

く感情を表現できないから——」

「そんなある日、おにーちゃんが他の女の子に告白されて断ったと聞いた妹。」

「『よし、おにーちゃんを私のモノにするつて決めた！ 私もおにーちゃんが大好

きなの！』と優しいおにーちゃんに告白することに……。」

//トライック1 おにーちゃんを拘束！

●おにーちゃんの部屋（夜）

「（ドアの向）「つか、おにーちゃん、いるー？」

「もー、じるじる。返事へりじしてよー」

「あ、勉強してたんだ。おにーちゃんって真面目だ
よねー。（間を開けて）（ううん、ダメじゃない
よー。）」

「（小さな声で）…………も好きだしー
…………」

「ううん。何でもなーい。それより、ちょっと話
があつて……。あのさ、おにーちゃん、また告白
されたつて聞いたんだけど……」

「……あ、やっぱホントなんだ。えつ。すぐ
断つちやつたの？ なんでー？」

「なあに？ 勉強に集中したいからまだそういう
とは考えてないって？ ふーん……」

唯

唯

唯

唯

唯

唯

唯

「でも、最近告白されることが増えたよね？ みんな、おにーちゃんの魅力に気づき始めたのかな？」

「（小さな声で）……自然な流れでなんて待つて、られないし、こうなつたら……」

「ねえ、おにーちゃん。ちょっとこっちに来て。そ
う、こっち。ベッドの側。それで少ししゃがん
で。うん。そのくらー……」

「やがてしたが田を蹊つても、がたがたい。
渡したいもの
があるの」

「わがままの一言が、どうだつた？　私のサス
.....　ハーフンレッド？」

「え？ 何するのかって……そんなの決まってるよ。え、いつ

「えへよひど……。」ハジの馬乗りつてゆーんだよね? おにーちゃんを見下ろすなんて新鮮な力

唯

唯

唯

唯

唯

「ん？ どかないよ？ だって、私、知ってるもん。おにーちゃんはダメだって言いながら、最後は絶対に私の言つことを聞いてくれるって」

「告白を断つたのも、本当は付き合つたりしたら、私が悲しむつて知つてたからだよね？」

「えへへ。優しいおにーちゃん。気付いたと思つけど、私もおにーちゃんのこと大好きなの」

「……私の言つ事……聞いてくれるよね？」

「今だ。えい！」

「足首にも、えい！」

「えへへ。おにーちゃんの枕の下に隠して置いたんだ。手錠を二つ。おにーちゃんの両手と両足を拘束しました。これで逃げられないからねー」

「ん？ 今の涙？ もちろんウソ泣きだよ。ほら、田薬。部屋に入る直前につけておいたんだー。上手だったでしょ？」

「……でもね、心の中では泣いてたんだよ……おにーちゃんが他の子に取られちゃうって……怖くて……」

「……だから、もう決めたの。おにーちゃんを私のモノにするって……」

唯

唯

唯

唯

唯

唯

唯

唯

唯

「…………ふふふふ。何をするかなんて決まつてゐるよー
…………もちろん……」

「（耳元で囁くよつて）（に）おにーちゃんは、トー

ゼン初めてだよね？ ん？ そつか。よかつた。
もちろん私も初めてだから……」「

「（耳元で囁くよつて）（に）一人でがんばつて素敵
なセックスをしようつね？ ふふふつ……」

//トーリック2 おにーちゃん フューリー

「ほら。もうおつきくなつて。おにーちゃんも私
としたかつたんだ……。じゃあ、舐めてあげる
ね。おにーちゃんのおちんちん……」

「…………やり方、知つてゐのかつて？ そんな
のネットを探したら、すぐ見つかるじゃん。いつ
ぱい練習したんだから……」

「んー？ ビーワって練習したのかつて？ ソー
セージとかバナナとかだよ。ビーお？ おにー^{ちゃん？}妹の初フューラチオ……。試してみたく
なーい？」

「…………ほら、見て。（舌を動かしながら）ほん
なふーにひらがうほいて……おにーひやんのおひ
んひんをなめるの……んつ……」

唯

唯

唯

唯

唯

唯

唯

唯

「あ、ちゅうとピクって動いた。かーわいー。今、
しゃぶってあげるね。……はむつ……れろつ、ん
ちゅつ……ちゅつ、れろれろつ……んんつ……
ちゅぶつ、ちゅつ……」

「んふふ……わらひのくひのなはれ、おひんひん……
……おつひくなつてひた……ひれひい……んつ……
んぶつ……れろつ、れろつ……ちゅつ、れろつ……
……んぶつ、ちゅつ……」

「んちゅつ、れろつ……ちゅ……ちゅふつ……
ちゅつ……ちゅふつ……ちゅく……れろつ、
ちゅつ……んちゅつ、ちゅつ……あ……ん
ちゅつ、れろつ……ちゅつ……」

「ちゅぱつ……やつたあ……おにーちゃんのおちん
ちん、すいぐおつきくなつたあ……これ、フル
勃起、つていうんだよね?」

「す」——、かた——、つ。血管、浮いてる。この
裏側の所とか、結構ホラーだよね。グロいってい
うか。でも、おにーちゃんのおちんちんなら舐め
られるよ。」

「んちゅつ……れろつ……ちゅつ……んつ……。
ん? 」「……ふーん、」「が気持ちいいんだ?
裏筋つてゆーんでしょ? 知ってるんだから」

唯

唯

唯

唯

唯

唯

「じゃあ、いっぱいチュツチュしたげるね……ちゅ
ふ……んあつ……んんつ……あんつ……ちゅぱ
……んあつ……んんんつ……ちゅつ、れりつ……
ちゅぱつ……」

「ん？ おしゃべりの穴から、なんか出てきたよ？ あ、これも知ってる。ガマン汁ってやつだよ。気持ちいいと出でてくるんでしょ？」

「おーーちゃん、ホントに感じてくれてるんだ。
嬉しいなー。えへへー。じゃあ、またしゃぶって
あげるねー……はあむっ」

「がまんひるむ……いつひよ……なめてあるか
ら……んちゅつ……んちゅつ、れろつ、れろつ……
ちゅつ、んくつ、んちゅつ……れろつ……ちゅ
ふつ、じゅりゅつ……」

唯

唯

唯

唯

唯

唯

「かねえひへ、かねえひへ………… そんがんがんへ………… ひも
ひいじんらねへ。んちゅうへ………… じねえひへ、れろひ
………… ちゅうほ、ぶちゅう、んじ………… そくひ、
かねえひへ、じゅ………… 「

「ちゅぱりー、おーーちやんの感じてる顔、かわいいなー。えへへ。私もローハンしちやうよ……んー、ちゅう……ちゅぱり、ちゅぱり……んちゅう、ちゅう、れろり……」

「んんひ、ちゅぱひ、れわひ、ちゅぱひ……… ん
ちゅひ、れろれろひ……… んあむひ………ひへ、
ちゅくひ、れろ、ちゅる……… ちゅひ、じゅ
……… んじゅ、ふひ………」

「ちゅぱつ！ んー、だんだん慣れてきたかも。
もつと激しくしてみるね……はあむつ」

「じゅぢゅひー　ちゅぱーんあつ　んんつ
あんひー　ちゅぱーんあつ　んんんつ
ちゅぱー、れろー、ちゅひー、ちゅぱんつ
じゅぢゅひー、ちゅひー」

離

「はあ……美味しい……が、さあひめが、美味しい……
よお、おお、しゃがみ……あひ……もひ、もひ、
ひむかむじ、ひむかむじ、ひむかむじ、

離

「ひむかむ、ひむかむ、ひむかむ、ひむかむ、
ひむかむ、ひむかむ、ひむかむ、ひむかむ、
ひむかむ、ひむかむ、ひむかむ、ひむかむ、
ひむかむ、ひむかむ、ひむかむ、ひむかむ、

離

「はあ……ちむかむ、はあ……ちむかむ、
ああ……はあ……はあ……はあ……はあ……
ぱ、じむかむ、んああひ、あんひ、
ちむかむ、ひむかむ、ひむかむ、ひむかむ、

離

「おひんひん、ぴくぴくひん、
おう、じられもいしてじられもいして、
ちむかむ、ひむかむ、ひむかむ、

離

「ちむかむ、ひむかむ、
んあひ、あひ、んあひ、あひ、
じむかむ、ひむかむ、ひむかむ、
ひむかむ、ひむかむ、ひむかむ、

離

「れせつ……、そ、ひひ、そ、
ひひ、ひひ、ひひ、ひひ、ひひ、
ひひ、ひひ、ひひ、ひひ、ひひ、

「……」

「んう！ ふふふ、んんんんっ
ん――」

「（口の中に精液が残っている）ぶあつ！ はあー…………あー…………いっはいらひたね、おにーひやん

「あー、射精したのに、まだ硬いままだー。これって私がコーエンしてくれてるってことだよね？ すっごく嬉しいなー。えへへ」

「（耳元で囁くように）…………じゃあ、入れちゃう
ね。おにーちゃんのおちんちん。だって、もう濡
れてるんだもん。とっくにぐちょぐちょだよ?
私のおまんこ……」

// テラック3 おにーちゃんと初エッチ！

「（耳元で囁くように）……ああ、嬉しいな……
やつとおにいちゃんどひとつになれるよ……いつ
ぱい中出ししてね……」「

「（耳元で囁くように）……ガーンぶ受け止めであ
げるから……優しいおにーちゃんの精子、全部……
…私のおまんこで……」「

「……あつ！ んんんつ……おつきいおちんち
んが……入つて、来るつ……！ あつ、ああ
あああ……！」「

「やあんつ……まだ入つて来る、よつ……
んんんつ……！」「

「思つてたより……全然痛くないよ……ちよつと苦
しいだけ……！」「

「いちおー、血は出てるけど……」「んなもん？
て感じ……んんつ……！」「

「……えへへ。心配してくれるんだ、おにーちゃん
……うつ、んつ……そーゅートコ……ホントに大
好き、だよつ……！」「

「んんんつ、あ、まだ入るつ……！」「

「うううう……全部、入つた？ 入つた……よね？
んんつ……！」「

唯 唯 唯 唯 唯 唯 唯 唯 唯

「じゃあ、動いてみるね……あひ……んぐつ……
はつ……んんつ、はうん……あああつ、んんつ
……はつ、あつ、んつ、ああああ……
ひやつ、あつ……やつ……」

「んつ、はつ……あああつ、んんつ……ああつ、は
ああつ……！……んつ、んつ……はつ……ああ
……んつ、あつ、ああ……！……あふつ、んんつ……
……ああ、んつ……！」

「おにーちゃんあああんつ……びびりよつ……私、
気持ちよくなつてきたよお……ああ……！」

「おにーちゃんはあ……？……
ちゃんと、気持ち、いじつ……？」

「ああ、嬉しいつ……！……そんなに、気持ち、いい
んだ……え、えへへ……もつと、もつと、
いっぱい感じて、おにーちゃんあんつ……！」

「あああ……んつ、はつ……ああんつ……
ひやつ、あつ、んんつ……！……んんつ、はつ……
……ああつ、んつ……はつ、ああつ……んんつ、
はんつ……！……んぐつ……！」

「おにーちゃんの……誰が誰……聞こえてきた……
えへつ……恥ずかしい？……でも、私……もつと聞
きたいな……んんつ……はつ、あつ……んぐつ、
はつ、ああ……！」

唯

唯

唯

唯

唯

唯

唯

唯

「あ…………三分で、口へ、塞いぢや、ダメ……ん
ん…… そんな」と、する、な……私が、
おにーちゃんの口へ、塞いぢやうだから……
……」

唯

「じょぱり、じょり、ひめひめ、ひめひめ、
ぱり、ひめ、ひめ、じょり、ひめ、ひめ、
ちゅるり、れろり、……」

唯

「れろり、ちゅり、ちゅり、んあ……
んんり、あんり、ちゅり、んあ……ん
んり…… れろり、ちゅり、んあ……ん
ちゅり、じょぱり、……」

唯

「ふあり…… おにーちゃんとのナーネー氣持
ちじじり…… とわそり、とわナちやんお
おり、おおあ……」

唯

「もっかい、もっかいチューしょる……
口の圓りも、もーんば、べロベロ、ひめ、
あげる……」

唯

「んちゅり、じゅぱり、ひめひめ、ちゅり……
ちゅり、れろり、ひめひめ、ひめひめ、
ちゅり、ひめひめ、ひめひめ、ひめひめ、
……」

「……」

「んあむひ……ふひ、 ちゅうひ、 れる、 ちゅる
ちゅうひ、 ふんむ……んえ、 ふひ……せふん、 ん、
ちゅうひ……… じゅうひ、 れるひ……ちゅうひ
……んちゅうひ、 ちゅうひ……」

「さあ……おこ」一ちゃんのベロも、ねねいひへ
て、吸ひて、あげるね……」

で何回目だろ……？

「ん? そりだよ……さつきしたのが初めてじゃな
いよ……ふふふ」

「私の、ファーストキスはおにーちゃんで……それからもおにーちゃんだけで……初めてしたのは、もつとずっと前だよ、んんっ……！」

「おーーちゃんだけキスしたらベロを絡められた
…………? ホントに覚えてないの? んんんつ
…………」

「…………覚えてないんだ……ちょっとシヨシクだよ……
……でも、これからはいっぽいチューしようね……
……んんっ……」

「ああっ……！ 私、すついこ濡れてる……！ お
に一ちゃんのズボン、私のHツチなお汁で、おつ
きこシミができてる……」

「ぐちよぐちよつてエツチな音、いっぽい鳴つてる
よ……！ あつ、わつ……んつ、はあんつ……
ああああ、んつ、はあああ……！」

「じゃ、じゃあ、もひとつ上手くできやうだから、速
く動いてみるね……！」

「ひやあああああっ……！ あ、これ、凄いっ！
速く動くの、凄いっ……！ んんつ、はうん！ あ
あああ、んんっ！ はつ、あつ、んつ、あ
ああ……！」

「んつ、はつ！ あああ、んんっ！ ああ、は
ああっ！ んつ、んつ！ はつ……ああ！
んつ、あつ、ひやつ、やあんつ……！ んんつ、ん
くつ……！」

「奥に、当たるっ……！ 私の、赤ちゃんの、お部屋に
当たるのっ、ああああっ……！ やあんつ……！ おちん
ちん、ホント、凄いよおっ……！」

唯

唯

唯

唯

唯

唯

唯

唯

「もう痛いのなんて、とうべになくなつて、意識が
飛んじゃいそうなくらい気持ちいいのっ！ お
にーちゃんっ、おにーちゃんっ！ はつ、
あつ、んんっ！ はあんっ！」

「ああっ！ んんっ、はつ！ ああっ、んっ！
はつ、ああっ！ んんっ、はあんっ！ あつ、
やつー んつ、はあんっ！ ああああ、んつ、
はあああ……」

「おにーちゃんも、ロペくぱくしながら、涎垂らし
てるっ！ そんなに気持ちいいんだねっ！ 私の
おまんこで、もつと感じてえっ！ んはつ、あ
ああ……」

「あつ、はつ、んんっ！ あつ、はつ、んんっ！
はあつ、あああつ！ んつ！ あつ、んつ、
んつ、はあんつ、んんつ、んぶつ、んぶうう
んつ、んんつー！」

「あ、そりだあ……！ おにーちゃんの乳首、忘れ
てたあ……！ ほら、私の指で、かわいがつてあ
げるねっ！ んつ、あああつ……！」

「ああ、すぐ乳首、勃起したよつ！ あつ、や
だつ、おまんこの中で、おちんちんがおつきく
なつたあつー？ 乳首をココココリつて触るたび
に、ぱくつて膨らんでるうー！」

「やあんっ！」「んなの、おつきすぎるとおつー！
だめっ、だめえっ……！ あー、はー、んんっ、
はあー、あああー、んっ！ やー、あー、ん
んっ……！」

「氣持ちよすぎで、身體が溶けちゃいそおつ！
まんこ、いいのおつ、凄いのおつ！ あああ
あつ！ んつ、はつ！ あああんつ！ やつ、ん
ふうんつ！」

「乳首コリコリするだけで、こんなにおちんちんが
おつきくなるなんて、もし舐めたら、どうなる
の…？ おにーちゃん、舐めて欲しい…。」

「えへっ！ 答えてくれないけど、舐めて欲しいに決まってるよね！？ だから、もう乳首に吸いついちやうんだからあ……！」

「ちゅぱつ！ はあっ、おにーちゃんの乳首も美味しいっ！ ちゃんと吸つてる間は、反対側の乳首をかわいがつてあげるからねっ！」

1

הוּא וְהַנְּזֶה בְּעֵינֵי כָּל-עַמּוֹד וְבְעֵינֵי כָּל-עַמּוֹד
וְהַנְּזֶה בְּעֵינֵי כָּל-עַמּוֹד וְהַנְּזֶה בְּעֵינֵי כָּל-עַמּוֹד

「ちゅぱつ！ はあああっ………… ホント、おにーちゃんの乳首、美味しいっ…………」

「ふふうひ、れわひ、ちゅせひ…… はぱうひ、ん
ふうひ、んふうんひ、んはうひ…… んふうひ、ん
ふうんひ、んんひ…… はふうひ、んんひ、れわ
うひ、れわひ、れわひ……」

「やあんっ！ 乳首をじじつてるときのおちんちん、凄いよっ！ あっ！ あっ、ああっ、んっ！ はあんっ、んんっ、んぶうんっ！ んくっ、はっ、ああっ、あああっ……」

「ああっ！ なんか、凄いの、来るわ！」——「これ、イクって感じなの？」「ああああ、やっ、ダメっ、これ、ダメえっ！」

「気持ちよすぎて頭おかしくなっちゃうだよお、おにーちゃんあんっ！ あっ、やっ、ああっ、ほんと、ダメええっ！」

「おにーちゃんも出でやうなの？ やつたつ、嬉しいっ！ 私と一緒に！」——ギュウッて、おまんこ締めてあげるから、初めてのセックസで一緒にイコッよおー！」

「ひやああんっ！ おちんちん、またおつきくなつたああっ！ あああっ！ ぶくつて膨らんで、おまんこの中、擦りこむひつ！ ああああああっ！」

「んんっ、んんんんっ！ あああっ！ 気持ちよすぎで、勝手に、おまんこ締まっちゃうのおおっ！ やっ、ああっ、こんな、こんなのだめええっ！」

「おにーちゃんの精子、いっぱい欲しいの？ だから、おまんこに、いっぱい出してつ！ ああああっ！」

「やああんっ！ 私、もうホントに凄いの、来るわー！ イク、イクイク——」

唯

唯

唯

唯

唯

唯

唯

レーベンホークは、1642年1月5日、オランダのアーヘンで生まれた。

... C - ! - ! - !

「（がくがくと震えながら）……ああっ！ 出で
るっ！ 精子、出でる！ やあんっ！ 熱すぎる
よ、火傷しちゃうよ、ああああっ……！」

「（がくがくと震えながら）……嬉しいつ！ イクのと同時に、おまんこに精子出されて、嬉しいよおつ！ 幸せだよお、おにいちゃああああんつ！」

「（がくがくと震えながら）…………あんつ、また、ど
ひゅどひゅって出たああ！ まだ止まらないなん
て、どれだけ貯めてたのぉつ！？ んんんつ……

▪
▪
▪
▪
!

「（がくがくと震えながら）…………はつ…………あつ…………あぐつ…………はつ…………んつ…………あつ…………はああ…………」

「（全身から力が抜けて）かはつ！ はあ――
はあ――はあ――はああああああああ
あ――
」

「…………ダメ…………もう力が入らないよ…………もう倒れ
ちやう…………私を受け止めて、おにーちゃん…………」

唯

唯

唯

唯

唯

唯

唯

唯

「……はあ。んつ……ふつ……はあ……むーひや
んの身体つて……おつきいよ……いつやつて上
に乗つてるとよへわかるよ……」

「ねえ、おにーちゃん……私の「」と……ギャウッてして？」
手錠したままであるだけよ？」

「…………んっ、そつ…………そんな感じでギュウッって…………
はあ…………」れ好きい…………んっ…………

「やあんつ……また、おちんちんがおまん」の中で

ピクピクって動いたあ……えへへ……

「（小声で）うん、それじゃあ……おやすみ。おひーちゃん……ちゅつちゅつ

// テラック4 おにーちゃんと朝チューンー

「(寝起き声) んー…………ふわあ～…………もひ朝なんだ
…………おひーちゃんは…………まだ寝てる…………」

「(寝起き声)…………やひとおにーちゃんと一緒に寝られた…………えへへ嬉しくな」

「(寝起き姫)…………朝起きて、おにーちゃんがすべ
隣にいるなんて…………幸せ過ぎておかしくなりそつ

「（寝起き声）…………はあ…………おにーちゃんの腕にすりすり～…………すりすり～…………」「

「(寝起きの話)…………えへへ。ギュシで抱き合ひながらおひどい……」

「（寝起き声）…………すう…………はあ…………おにーちゃんの濃いいい匂いだあ…………はあ…………幸せ…………」

「(寝起き声)…………ん…………寝顔、かーわいーなあ
…………つんつーん…………ほひぺた、柔らかいな…………
ちゅーしちゅーう…………ちゅー」

「(寝起き声)えへへ.....」うなづいて今まで
回もチューしたんだよね.....唇にだって.....」

「（寝起き声）…………んっ…………ちゅう。」のべり、
「じゃ…………おにーちゃんは全然起きないかひ…………だ
から、もつとしたくなっちやつて…………」

「（寝起き声）……今みたいにかわいいチューだけ
じゃなくて……ねつとりした大人のキスも……」

「…………んつ、れろつ…………くちゅちゅぱつ…………れろれ
ろ…………はああん…………んんつ…………くちゅ…………ちゅ
ぶつ…………れろつ…………ちゅつ…………んんつ…………あんつ
んああつ…………」

「ちゅ……ちゅ……ぱ……ちゅ……ん……ちゅ……ぱ……
ちゅう……はあ……くちゅちゅ……くちゅ……
ちゅつ……ぶちゅ……はあ……」

「（寝起きの小さな声で）……ほつぺた……美味し
かつた……んんつ……私、ゴーフンしちやつた
よ、おにーちゃん……」

「（寝起きの小さな声で）……んつ……おにーちゃん
のおちんちんは……」

「（寝起きの小さな声で）……わつ、こつちはおつ
きしてて（語尾を笑のニコアンスで）。……朝立
ちなのかな？ それとも私のキスでゴーフンし
ちゃつたのかな……？」「

「（寝起きの小さな声で）……う……昨日のニッ
チ、思い出しちやつたよ。凄かった、おにーちゃん
のおちんちん……」

「（寝起きの小さな声で）……私のおまんこの一一番
奥まで届いてて……お腹の中、ずんずんつて突き
あげられて……」

唯

唯

唯

唯

唯

唯

唯

「（寝起きの小さな声で）おにーちゃんの乳首を触つたら、おちんちんはもひとおひきくなつて……」

「……」

「（寝起きの小さな声で）田の前が真っ白になるくらい気持ちいいのに……イクときはもひと気持ちよくて……」

「（寝起きの小さな声で）……やだ……私、濡れてしまひたよ……」

「（寝起きの小さな声で）……もう、ガマンできない……朝からセックスしよ、おにーちゃん？ あつつい精子、私のおまこにちょーだい……」

「トライシックおにーちゃんがおまこで射精めー…」

「（寝起きの小さな声で）……あよーあくなおちんちんが出てきた。えへへ。お口でしたげるね。寝起きつヒラチオだよ、おにーちゃん……はむ……」

「…」

「れろれろ……ちゅぱふ……んぶうん……ちゅむつ……くちゅ……れろれろ……ちゅぱくちゅ……ちゅぱ……んあつ……んこつ……あんつ……ちゅぱ……んあつ……」

「……」

「（寝起きの小さな声で）……ちゅぱつ。おにーちゃんは寝てるのに……おちんちんはすつごく元気だよお……はあ……んちゅぱつ、れろつ、チユチユ、ひりつ、ひるつ、れろつ、チユチユ」

「んんんっくちゅあひくぶっくちゅ、ちゅ
ぱつんっ、くちゅあひくぶっくちゅ、れろれろっ
…ちゅうひ…ちゅくぶっくちゅあひくぶっく
くちゅ…れろれろ…」

「……あ、おにーちゃんが起きた。えへへ。おは
よー…ちゅあひくぶっくちゅあひくぶっく、れろれ
ろっ、ちゅあひくぶっくちゅあひくぶっく…」

「んー? 何してのかつて? 見てわからない?
おちんちん、しゃぶつてるんだよー? はむつ
…ちゅあひくぶっくちゅあひくぶっく、ちゅう…
ちゅう、れろ…」

「あ、手錠したままだったね。でも、ちよびとい
や。」のまま私に任せた

「んちゅあひくぶっくちゅあひくぶっく、ん
ちゅう…れろれろ…ちゅあひくぶっくちゅう、
ちゅう…」

「朝から、」おーんなにおひきくしてるんだもん。
「これつて早く私に中出ししたいつてことだよ
ね?」

「えー? 血のつながりなんてカンケーないよ。
私、おにーちゃんが好きなんだもん」

唯

唯

唯

唯

唯

唯

唯

「もつとおつきくな——れ——はむつ。ちゅぶつ
んつ、くちゅ——んちゅちゅぶつ——れろれろ
——ちゅむつ、んつ——くちゅ、れろつ——んつ
——ちゅ——」

「…………はあああ…………ひをぱう…………くわを…………
ちゅく…………れろれろ…………ちゅぱう…………くわくわ
むつ…………はああ…………ちゅくちゅぱう…………ちゅ
ぱう…………れろれろ…………」「…………

「んふふつ……おつきくなつたあ……はあ……すつ
『』い硬いねえ。でも、まだ入れてあげない。もつ
とい一つぱい、おに一ちゃんをかわいがつてあげ

「例えまあー…………玉袋。キンタマウチやーの?」
「」を吸つたり舐めたりしたげる…………

「ああひ……ちゅぱちゅぱ……んんひ……ああひ……
れろひ、ちゅ……あんひ……ちゅぱ……れろひ……
……んああひ……ちゅぱちゅぱ……んあひ……
ちゅひ……ああんひ……んあひ……」

「反対側のキンタマも……はむつ」

唯 唯

「ちゅぱっ！ えへへ……キンタマ吸つたり……気持ちよかったです？ 他の場所もたくさん舐めてあげるね……」

「はーい。おにーちゃんの顔の側にやつてきまし
たー。ふふつ……かつこいい顔がすぐ側に……
ちゅつ……れろつ、ちゅつ……」

「おにーちゃんが寝てるときもキスしたんだよー？
で、これからおにーちゃんが起きてから初めての
キス……ちゅっ、れろっ、ちゅぶっ……ん
ちゅっ、ちゅぶっ、れろっ……」

「もー。おにーちゃんもベロを絡めてきて。その方が気持ちいいでしょ? ほりちゅくれる
れろ……ちゅぶっく……はあ……んつ……あ
ああ……ちゅむつ……くちゅ
「……ちゅむつ……くちゅ

「ああい……氣持ちいいい。ベロとベロが擦れて、
身体中がじろんつてなつちやうつ……！ んぱつ
ちゅぱつくちゅ……れろれろ……ちゅぱつ……
くちゅぱつ……んぱつうんつ……！」

「ちゅ、ぶつぶつちゅ……れりり、ちゅう……ぶ
あつ。はあ……おーちゃんの口が涎だらけ
なつちやつたね……ふふふ……変な顔……」

「私だけに見せる顔だね。ふふふ。じゃあ、今度はねーお耳を舐めてあげる。」れ、おにーちゃんみたいなヒムっぽい人は、大好きなんでしょ?」

「(耳元でささやかべつめう) (元) 唯一 お~ して欲しくない~」

「(耳元でささやかべつめう) (元) 唯一 して欲しいんだあ~ ジヤーあ~ 舐めて、あ、げ、る~ ちゅ~。んん~ れろ~、んちゅ~ ふんちゅ~、ちゅ~」

「.....んちゅ~ れろ~、ん~ ひ~ ひ~ ひ~ ちゅ~、れろれろ~、ちゅ~ れろ~、ん ちゅ~、れろ~ はあ~ はあ~ ちゅ~、れ ろ~、ちゅ~、ん、ちゅ~」

「(耳元でささやかべつめう) ああ、おにーちゃんが感じてる~ ふふふ~ お耳も気持ちいい~ だ~ じつへり舐めてあげるね~ れろ、ぺろおれろ、んちゅ~、れろお~」

「ちゅ~、ちゅ~ んちゅ~、ちゅ~、れ ろ~、ちゅ~、ちゅ~ れろれろ~、んちゅ~ ふ~、ひ~ ひ~」

唯

唯

唯

唯

唯

唯

「(耳元でさわざわよつて) ……んじゃ、反対側のお耳もしたげるね」

「(耳元で囁くよつて) ……」ちの耳も、れる
れる…ちゅぱくべくちゅ…ちゅぱくべくちゅ
れる…くちゅ…くちゅ…くちゅ…くちゅ
…」

唯

「れろれろ…んちゅ…れろれろ…んんつ…
…れろれろ…ちゅむ…くちゅ…くちゅ…
ちゅぱくべくちゅ…んつ…くちゅ…くちゅ…
くちゅ…くちゅ…くちゅ…くちゅ…くちゅ…
…」

唯

「(耳元で囁くよつて) ……耳たぶもちゅーっして
たげるね…」

唯

「ちゅ…ちゅ…はああああ…ああああ…ああああ…
…」

「…」

「(耳元で囁くよつて) ……私、もつとおーち
んを舐めたくなつてきちやつたよ…だから、こ
のまま首筋も舐めてあげるな…」

//トライク6にて「一ちゃんに舐舐めかいたつぱ」と金剛リップ...

「れろつ、ちゅ…れろ…れろれろ…んはつ…
…あああ…首筋、くすぐつたい？ 舐めるた
びに、おーちゃんつてば、ピクピクしてね…
…」

唯

「ん？ やーお？ 気持ちいいんだ」「へへへ
もつと感じてね、おにーちゃん。れろりく
ちゅ、ちゅむつ……んんつ……くちゅ、くふ
ふれろれり……くちゅ」「

「……んちゅ……くちゅ……ちゅぱつ……んふつ
……ちゅぱつ……れろれり……れろれり……ちゅ
ぱつ……れろれり……ちゅぱつ……くちゅ
ちゅぱつ……れろり……れろり……ちゅ

「……はあ。」のままキスマークつけちゃお
ちゅぱつ……れろり……ちゅぱつ……一 もつ
かーじ……ちゅぱつ……れろり……ちゅぱつ……
うううううううううううううう

「ちゅぱつ……ん……まだ薄いかなあ……もつと
はつきりしたのをつかなきや……ちゅぱつ……
うううううううううううううう
「……」

「ちゅぱつ……うん。キスマークつけた。お
にーちゃんの身体に、私のシルシがついたよ。え
へへ……。ちゅぱつ……れろり……んつ……ちゅ
つ……」

「じゃあ、次はおにーちゃんの大好きな乳首、だ
よ。」「

唯

唯

唯

唯

唯

唯

「ああ……乳首がもう勃起してない……触つてないの
に……すい」
「――」

「私もね……おまんこ、とつぐにぐちよぐちよだか
ら……うううううううううううううううううううううう
だガマンしてね。乳首もお腹も足もまだ舐めてな
いんだから……」

「じゃあ、おにーちゃん乳首、いただきまーすつ
……」

「ちゅぱつーはあ……
……おじち。んー……ちゅひ……れろつ……ちゅ
ぱつ……くちゅ……ちゅぱつ……れろれろん
ふうん……ちゅむつ……」

「反対側の乳首は指でコリコリしたげるからねー
……くちゅちゅぱつ……れろれろ……はああん……
……んんつ……くちゅ、ちゅぱつ……ちゅぱつ、く
ちゅ……んん、ちゅむつ……」

「おにーちゃんが仰け反つてる乳首、ホントに
気持ちいいんだねー……ふふふう。もっと舐めて
あげるくちゅ……れろれろ……ちゅぱつ……
れろつ、ちゅつ、れろつ……」

唯

唯

唯

唯

唯

唯

「ちゅぱり…………くちゅ…………ちゅむり…………」、れろれ
ちゅ、ちゅぱり…………くちゅんり、ちゅぱり…………ん
ちゅ…………んり…………ちゅぱり…………く

「はあ……舐めてる私が『一』ンしちゃうよ……ちゅぱい……んつ、くちゅ……れうい……くちゅ……んん……れりい、ちゅい……ちゅぱい……れい、ちゅい……んんい……」

「れれれれり、れれれれり……ちむむい……んふう
ん……ちむむい……んちむ……れれれり……ん
ぶいぐちむ……ちむぐちむ……んちむ……んぶ
くちむ……んれりおひ……」

「甘噉みをしたげるね……はむ……はむ……れ
む……はむ……ちゅぱ……くちゅ……は
む……れろれろ……ちゅぱ……くちゅ……んん
ふ……ちゅむ……はむ……「..

「はあ…………」一ゆーの全身リップ、つてみーんで
しょ? 知ってるんだから

「どへしり、やうじうHシチな韻葉を知ってるの
かって? だつて、いろいろ勉強したんだも
んつ。おーちゃんを『ローフン』させたくて……

「私みたいなかわいい妹が、おまんこで囁いたり
ドキドキするでしょ? ローフンするでしょ?
ほら……おまんこ」……おまんこ……つて……

「ふふふう…………おーちゃんのおちんちん、ぴくっ
てなつたね…………後でいつぱい囁つてあげるからね
……」

「じゃあ、このままお腹こもー……ちゅつ。えへへ
……すぐぐったい? お腹はダメ? んー、くす
ぐつたいだけなら舐めても仕方ないかー」

「でも、おーちゃんのお腹も好きだよ。すりすり
……すりすり……べへへ。くすぐつたい?
じゃあ、おへそに……ちゅつ

「このまま下がるとおー……元気なおちんちんがあ
るけど、ちよつとだけ待つてね——ちゅつ

「おーちゃんの内股をチュウチュウしたげる……
ちゅつ……ぐちゅ……ちゅむつ……はあああ……
ちゅくへ……ひぶ……ひぶ……ひぶ……れろれろ
……ちゅつ……ちゅつ……ちゅつ……ちゅつ……

「反対側も……ちゅく……れろれろ……ちゅぱつ
く……はあ……ちゅつ……れろれろつ、ちゅつ
……んつ……はあ……ちゅつ……いむすちゅぶつ……
……れろつ、ちゅつ……」

「ふうふ……くすぐったい? 気持ちいい? ふー
ん……内股は結構気持ちいいんだ……れろつ……
れろつ……れろお……ちゅつ……れろつ……
ちゅつ……ちゅぱつ……」

「」のまま膝の裏にも……ちゅつ……ふくらはぎ
もー……ちゅつ。ん? なに? それ以外、ど
こを舐めるのかって? おにーちゃんの足の指だ
よ」

「感じる人は凄く感じるんだって。おにーちゃんは
どーかなー?」

「……はむつ……んちゅつ……れろつ……じゅぱつ
……ちゅつ……ちゅぱつ……はああ……ちゅ
ぱつ……くちゅ……ちゅぱく……へゑけへゑけ……じゅ
ぱつ……じゅぱづぶづぶつ……」

「どーお? 気持ちいい? ん? あ、答
ないつてことは、気持ちいいんだ。じゃあ、もつ
と舐めてあげるね——」

唯

唯

唯

唯

唯

唯

世紀の歴史を記す。この歴史は、世界の歴史を記す。

ちゅふつ れろれろ くへちゅ れろつ、
ちゅぶつ じゅつ 「……」

「……………」

ମହାଦେଶୀରୁ ମହାଦେଶୀରୁ ମହାଦେଶୀରୁ ମହାଦେଶୀରୁ

「ねこちゃんの足の指も美味しい……ちゅむつ……

「ちゅぱつ……はあ……じやあ、最後はすりこぐ

「何をするのかって？ いーから早くー。痛い」と
じゃないから安心して

「やうやう。そんな感じ。ああ、おにーちゃんが恥ずかしいところが丸見えだよお……ん？ うん、そうだよ。お尻の穴……！」をね……ベロベロって舐めてあげる……」

「やめろって言つてもやめないよーつだ。おにーちゃん」を手と足に手錠されても少しは動けるよね？ でも抵抗しないよね……？」

「それって……私の好きにしていいってことじやん。全然ゴーインなりクツじやないよ」

「あつ、だめっ……逃がさないんだから……！
んちゅっ！ ちゅっ……ちゅくっ……！
ちゅぶっ……んっ……ちゅむっ……はっ……！
れろれろっ、ちゅっ……！」

「ふふふ……お尻の穴を舐めたら、おにーちゃんの身体から力が抜けちゃったね……！」、そんなに弱いんだあ……ん？ 自分でも知らなかつた？」

「そつかあ……私が見つけたんだ、おにーちゃんのセーカンタイ。アナルが弱点だなんて……おにーちゃんつてば、ほんとドMだよね。そういうところを知ってるの、私だけなんだからね」

唯

唯

唯

唯

唯

唯

唯

「ん……ちゅう……れろひ、ちゅうぶつ……！
れろれろひ、んちゅう……！ ちゅうぶつ、
ちゅう……！ ちゅうぶつ、くちゅ……！ れろれ
ろ、ちゅへん……！ んちゅうぶつ……！」

「ああ……おにーちゃんのアナルって変な匂おー
い。でも、好きだよ、私。舐めるたびにヒクヒ
クつてなるのも、おにーちゃんがアンアンして舐
ぐのもだーいすき……ひびひび……」

唯

「」のままお尻の穴を舐めながら、おちんちんをシ
ロシロしたげる。だから、もつと舐め声を聞か
せて……」

「わわ、おちんちん、わわわわわわわわ……
……やんなにコーフンしてるんだー……ふ
ふ……もひと舐めかぶたてべくわせたがるからね……」

「ん……ちゅうぶつちゅうぶつ……！」

「ふふふ……さなり強く吸われてびくびくして
しょ？ おちんちんもピクピクって震えたよ？
もひがマンできないから激しくしちゃうね……」

唯

「ん……ちゅうぶつ、んふ、べちゅ！ ちゅ
ぱつ、んふ、んんつーはむ、れろひ、ちゅ
ぱつーんふうん……んつ、んぶつ、ちゅ
ちゅーーちゅぶ、ぶぶぶ、はーーあーー

「はあ……美味しい……おにーちゃんのアナル、すっごく美味しいよ……！ もつと、もつと舐めさせてぇ……！」

「れろひ、ちゅひー んぶひー れろひ、ちゅ
ぱつ！ はふつ、んふつ、んふうんつ
ちゅつ、れろひ、れろひ、ちゅつ！ ちゅぱつ、
ちゅりゅつ、れろひ、ちゅつ！ んんつー」

「おちんちんも、がつちがちに勃起してるねっ……！　ナル舐めシコシコ、大好きなんだね、もっとしたげる……！」

「ちゅーー ん♪ハ、ん♪ハ、ん♪ハ、ん♪ハ、は
ふハ、ん♪ハ、れろハ、ちゅーー、ちゅ♪ハ、は
ああああああああああああああああああああああ
ちゅーー、ちゅ♪ハ、れろハ、ちゅ♪ハ、じゅーー

「はああ……んちゅうりー…んつ、んんりー…れ
るつ、ちゅうふつ、ちゅうりりー！…んふつ…
れろつ、ちゅつ、ちゅうふつー…れろつ、じゅ
りゅうつ、ちゅうつー…んふうんつ、んんつー…」

תְּהִלָּה תְּהִלָּה תְּהִלָּה תְּהִלָּה תְּהִלָּה
תְּהִלָּה תְּהִלָּה תְּהִלָּה תְּהִלָּה תְּהִלָּה

「なあに、お二二一ちゃん…。もうイヤイヤにな
のー！ イキや？ イキやうなうてー。」

「れる、ちゅぱり、くちゅー、じゅぶ、じゅぶ
ぶつ、れる、くちゅー、ちゅぱり、ちゅぱり、ん
ふつん、ぶぶぶつ……」
「…」

「おにーちゃんが、すついでるー。やうな
んだー。もう精子、出ちやうんだね……」
「じゃあ、」

「——つて、まだダメー。ふふふつ……おにーち
ゃん、泣きそつな声してる……。どうしてって?
だって、朝一番の濃い精子は、私のおまんこ
に出来なきや……ね?」

//アリシア/おにーちゃんの濃厚エッチ!

「ほり。起き上がって、おにーちゃん。膝立ちする
の。手足に手錠がかかってもできぬでしょ?」

「やつ。そんな感じ。それで……ね? 私は「つ
やつて……」

「四つん這いになつて、おにーちゃんのお尻を向け
るの……丸見えでしょ? 私のおまんこ……」

「ねえ、おにーちゃん……」のまま入れてえ……バ
ックつて叫うんでしょ? 「の体位……。してみ
たいの……獣みたいにいはいついて、私のおま
んこぐちゅぐちゅにしてえ……」

唯

唯

唯

唯

唯

唯

唯

「だつて私、くらべらするほど興奮しちやつてるんだもん……おにーちゃんの精子、おまんこにいっぴい欲しいんだもん……だから、ね？ 早くう……」

「あつ……！ 私のお尻、そんな強くつかむの……？ ううん、いいよ、おにーちゃんの好きにして……！」

「ひやつ……！ おまんこに、おちんちんの先つちよが当たるう、あああ……！ いいよ、そのままで入れてえ……！」

「んんんんんつ！ は、入つて、来るつ！ ああつ！ そんな、焦らすみたいにゆっくりするなんて、ダメえつ……！」

「あつ、ああ……！ ううう……！ んんつ、んんくくく……！」

「あつ、おにいちゃん……？ あぶつ！ うつ、んつ、くつ……はああ……！」

「んつ、んんつ！ 全部、入つたあ……？ ジやあ、動いて、おにーちゃんあんつ……！ 早くパンパンつしてえ……！」

唯 唯 唯 唯 唯 唯

「あつ…… あつ、ふつ……！ んつ、はあんつ……！ あんつ、あああつ、んんつ、はあ……！ あふつ、んんつ……！ ひやつ、あつ……！ んくつ、んふうんつ……！」

「おにーちゃん、ゆつくり突いてるのに、気持ちい、いいつ……！ おにーちゃんの上に乗つてするのと、擦れるところが違つぱつ……！ 後ろからするのも、いいつ……！」

「私の乳首、触つてないのに、びんびんに勃起してるよおつ……！ はつ……！ んんつ、はつ……！ あつ、やつ、んんつ……！ んぶつ、はあんつ……！ あふつ、んんつ……！」

「えつ、もつハイキそつなの、おにーちゃん！？ そうだよね、あれだけアナル舐め手コキしたんだもんねつ……！ イツつていいよ……！ んんつ、はつ……！」

「あつ！ 突くの、速くなつたあつ！ んんつ！ 私も気持ちいいよおつ！ ああつ……！ いつでもいいから出して！ おにーちゃんの精子、私のおまんこにぶちまけてえ……！」

「ひやああああああああ……！ ……！ 出てるつ……！ おにーちゃんの精子、私のおまんこに、いっぱい出でるつ……！ あああああ……！」

唯

唯

唯

唯

唯

唯

「もっと、もっとちょーだいいつ……！ 朝イチのすつごい濃い精子、欲しいのおつ、あああつ

「……」

「んんつ……！ いっぱじ出でるつ……！ 嬉しいつ……！」

「ああああ……！ お腹の中、あつつい

よおつ……！ 体温、上がつちゃうそおおつ……！」

「……」

「あくつ……！ はあ……ふう……いっぱじ出
したね、おにーちゃん……。じやあ、ゆつくりお
ちんちんを抜いてみて……！」

「んつ……んんつ……ゆつくり引き抜く時も気持ち
いい……！」

「ああ……！」

「はあ……おちんちん抜けたね……じやあ、おにー^{ちゃん}……私のおまんこ見て……おにーちゃんの
精子、いっぱい入つてるでしょ？ 見える？」

「お尻ふりふり……ほら、見えるでしょ？ 私の
エッチなお汁と、精子がぐちよぐちよに混じつ
た、いやらしい液体が……！」

「……あつ。やだつ……垂れて來た……んんつ……
もつたいないから漏れちゃダメつ……んつ、
おまんこ、締めればつ……！」

唯

唯

唯

唯

唯

唯

唯

「やあんつ！ 締めたらもひと出できがやつたあ！
もつたいないよお……おにーちゃんの精子、お
腹に入れておきたいのにこぼれないでえ……」

「あ、そつか。手で抑えればいいんだ……ひやつ！
おにーちゃん？ 私の手をつかんで邪魔しない
で。おまんこにフタするんだからあ」

「ひやあ！ お、おにーちゃん……？ 私の身体、強
引に毎向けにしてごうするの……？」

「……あつ、おちんちんが、すつ！ ぐ大きくなつて
る！？ 反り返つてて、なんだか凶悪だよお…
…！ こんな見たことない……！」

「しかも、おにーちゃんがフー！ フー！ つて
言つてる！？ ロボットみたいになつてゐ…
…！」

「もしかして、すつ！」 ローフンしてゐ？ そ、そ
うなんだ……してるんだ……」

「えつ？ 」のまま入れるの？ 正常位で？」

「ひやあつ！ また、おちんちん、入つて…
るつ！ んんつ、んんんんんつ……！ やつ
ぱりさつさよりずっとおつきよおつ……」

唯 唯 唯 唯 唯 唯 唯 唯

唯

「でも、大丈夫だから入れて、おにーちゃん！ 初
めておにーちゃんからしてくれるんだもんつ…
…！ 私、嬉しいで、ちょっと感動だよお…
…！」

「ああああつ…」

「全部入つた！？ これで全部つ…なんだ…！
正常位つてこんな奥まで入るんだね…す！」お
いつ…」

「あつ…！ やつ…！ んんつ…！ おにー¹
ちゃんが動いてくれてる…！ 嬉しいつ…！
とつても気持ちいいよ、おにーちゃんつ…
…！」

「んつ、はつ…！ あつ、んつ…！ はつ、あ
ふ…！ ああんつ…！ はつ、あつ…
んつ…！ はんつ、んんつ…！ はつ、んつ…
…！ はつ、あつ、んつ…！」

「なんだか、お腹の下の所が擦れる…！ 擦れ
て、いいつ…！ 気気持ちいいよおつ…！
はつ、ああ…！ ひうつ…！ ひひひひ、
あつ、んんつ…！ ひやつ…！」

「おにーちゃんのおちんちん、すつ！」おいつ…！

おつきくて、硬くて、熱くて、身体中がびりび
りするくらいい感じじちゅうよおつ、あああつ…
…！」

「…」

唯

唯

唯

唯

唯

唯

唯

唯

「んつ、はつ、あつ…… んう、はあんつ……
あつ、ああつ、んう、はつ、あああ……
あ、んつ、はつ、んふつ……！ んつ、はつ、
あつ…… んんくつ、あつ……！」

「あああんつ…… 私、おにーちゃんの「」と、ホ
ントに好きつ……！ 真面目なところも優しいと
ころも、ときどき冷たいところも全部好きなのつ
……！」

「だから、おにーちゃんからしてくれて、嬉しい
よおつ……！ はつ、あああ…… んつ……！
はあんつ、んつ……！ あつ、やつ……！」

「えつ、何……？ おにーちゃんも、私の「」と、
好き？ 好きになつたの……？ カわいいとい
ろも、声も仕草も、全部好き……？」

「ホント…… それホントなの……？ うんつ、う
んつ…… ホントなんだ！ 嬉しいつ！ 嬉し
いよ、おにーちゃんあんつ……！」

「私も好き！ おにーちゃんと一緒にいられたら他
に何もいらないって大好きなのつ…… ああつ、ん
んつ、はあんつ……！」

「だから、おにーちゃんが枯れちゃうくらい、何回
も中出し、してえ……！ ああああつ……！」

唯

唯

唯

唯

唯

唯

「たくさん出して欲しいから、おにーちゃんの乳首、きゅって摘まんであげるね……！ ああっ！ やっぱりおちんちんが、おまんこでぶくって膨らんだあ……！」

「ひやつ！ あああつ！ ぱんぱんってエッチな音、すつ”い鳴つてるうつ！ こんなの激しうるよおーーあつ、んんつ、はあんつ、んん！ ああ、んん、んぶつー！」

「乳首、コリコリつてしたげるの、忘れちゃいそおおつーーうん、そんな心配しないで、おにーちゃんつーーちゃんとコリコリしたげるからあーー！」

「あああつ、あああつ！ あんつ、はあんつ、んつ、あつ、あああつ！ んんつ、はつ、あつ、はああつ、あつ、ああああつ、んんつ、はあんつ！ んんつ、やああつ！」

「この、正常位つてカツコ、恋人つて感じがして嬉しいつーーおにーちゃんから、これ、してくれたのが、ホント嬉しいのつ、あああつ、んくつ、はあああつ！」

「だって、キスだって簡単にできちゃうでしょおつくれるのつーーして、チューして、おにーちゃんつーー」

「んちゅ…… ちゅぱり、じゅぶり…… ひゅぶり……
ちゅぱり、ちゅぱ、んちゅつ…… ひゅひゅ……
…… わゅぱり、んちゅ、じゅぶ…… ちゅひゅ……
ちゅぱり、んちゅくふり……」

「ちゅぱ、んちゅ…… ひゅひゅ……
はあ…… 美味しい…… んちゅ、れりり、ちゅ
ぱり、んちゅ…… れり、んちゅ、ひゅぱり……
ひゅぱり、んちゅ…… わり、んちゅ、ひゅぱり……
……」

「はあ…… チューしながりおまん」突かれるの、
すう、「こ氣持ちはぐれ幸せだよおつ…… もひび、
もひとお……」

「はぶり…… ジュぶ、ジュツキ…… ちゅ
ぶり、ちゅぱ、ちゅぶ、ちゅくふ…… ちゅぱ
ぱり、ちゅぱ、んちゅ…… ひゅ、ひゅ……
…… んん…… んふり……」

「おこーちゃんもチュー、氣持ちいいでしょ……?
んつ? 頭も氣持ちいいのつ? らふり、こ
のまま中出しするまでじゅつてあげるから
ねえつ…… はあんつ……」

「はぶり…… くちゅぴちゅ…… んちゅ、ひ
くちゅ、ひりかれ、んちゅ、れりり、
んちゅ…… わり、んちゅ、ひり、んちゅ……
ひり、んちゅ、ひり、んちゅ……」

唯

唯

唯

唯

唯

唯

ମୁଣ୍ଡାରୀ ମୁଣ୍ଡାରୀ ମୁଣ୍ଡାରୀ ମୁଣ୍ଡାରୀ ମୁଣ୍ଡାରୀ ମୁଣ୍ଡାରୀ

「ああ、おまえの心配は杞憂だ。」

「はあっ！ あっ！ あっ、ああっ、んっ、はあ

ああんつ、んつ、はあんつ、ああんつ！

「あ、
チューーしてたが、また激しくなつたあー

あつ、ああつ、やつ、だめつ、これだめえつ、激しそぎて、私、壊れちやううつ、あああつ、はああんつー。」

「あつ、やあつ、だぬつ、も、もお、こんなの凄す
いわよー。気持ちよすぎで、おかしくなつちや

ああ、はつ、あああつ、んんつ、ああつー

「『やな』されたら、おいちやんが中止しある前

あああつー！」

「おーーちゃんもわへ田やなのーー。おまえ、ギャル
ハサツつて締めてあげるからー。乳首キハつてし
てあげるからー。」のまま中出ししてやー。」

「あ、イク、私、もう無理い！　イク、イクイクー
——」

— ! . . . — ! . . . — ! . . .

「あああーー すいこ勢じで出でるーーおーー
かやんの精子、出でるひひーー 繋い、繋い
よねーー あああーー」

「もうひと、もうひとことございちゃーだいー。おまん
い、溢れちゃうへり、ちゅーだい、おーちゅ
ああんつー。」

「私も、おまんこ、締めてあげるからあつ！ ああ
んつ！ また出たあつ！ 嬉しいいいつ……！
んんつ……はつ、あああつ、んんんつ……！」

「んぶつ！？ んんつ！ んつ！ んんつ！ ん
ちゅつ、れろつ、ちゅつ……！ んんつ……
ちゅつ、ちゅぱつ……！」

唯

唯

唯

唯

11

唯

唯

「中出しがながりチコーわれるの、すつ！」
セツ… もつと、もつとお、おにーちゃん
んっ…」

「ああああ……目の前が……真っ白になっちゃうく
らい……イツちゃつたあ……もう力……入らない
よお……ああ……」

「全部出たあ？ ふふふつ……出たんだあ……。おにーちゃんの精子、ゼーんぶ、私のおまんこで受け止めたからね……。絶対子宮に届いてるよ……」

「…………あつ、やだ。精子が出てきたあ…………漏れちゃ
わないようにな、おちんちんでフタしてて…………あつ
んんっ…………」

「んんっ……！　イツたばかりだから、おにーちゃんがちょっと動くだけで敏感に感じちゃった……。でも、これでしつかりフタできたね……」

「……あつ。おにーちゃん、息切れしてる……？
力入らないの……？ じゃあ、私の身体に倒れて
きていいよ……おにーちゃんの体温を感じたいの
……」

「……んんっ……私、おにーちゃんに包まれてる……
……ギュッてされてるみたいで気持ちいい……」

「……あつ、ホントにギュッしてくれるの……嬉
しいよお……」

「（耳元で囁くように）……私もおにーちゃんに抱
きつくな。おにーちゃんももつとギュッてしてえ
……力入れても大丈夫だから……んんっ……その
くらいい……んっ……はあ……」

「（耳元で囁くように）……中出しエッチした後
に、『うわって抱き合いつの……ちょ一幸せだ
よお……』

「（耳元で囁くように）……ずっと一緒にいよう
ね。大好きだよ、おにーちゃん……」

//おわり

唯

唯

唯

唯

唯

唯